

2019年度事業報告

1. 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

1)事業の推進

*目標にこだわりながら、各ショップと連携をはかって事業に責任を持ちましたが、事業高は減少しました。前半期の点検から対策を立てた1月~3月は、新型コロナの影響で予定していたセールなどの結果が芳しくなく、社会情勢に左右される事業の厳しさを痛感しました。

*10月からの消費税10%に伴う価格設定の改定などの対応も図りました。

*10月からポイントカード導入に取り組むなど、3ショップで工夫をしました。

*環境を考え、ビニール袋の使用をやめて、エコバック持参を推奨しました。

*今年度も「地球市民かながわACT」のクラフト販売に取り組みました。販売期間を11月から1月としましたが、昨年ほどの売り上げにはなりませんでした。

(各ショップのイベントなどについては別紙参照)

*2月ごろから新型コロナウイルスの感染が社会的問題となり、人の出入りも少なく事業も落ち込みました。

①中田店：目標額 650万円 実績 5,961,431円（前年 6,147,470円） 目標比 91.7%

前年比 97% 税抜き 5,470,909円

- ・イベントなどを細かく実施しましたが、目標額には届かず厳しい結果となりました。
- ・ボランティア募集をホームページに広報し、店頭にも手書きのポスターを掲示した結果、10月に入って2人の応募がありました。
- ・東北物産販売を常時販売した結果、皆さんに定着するようになりました。
- ・連携しているプアンの就労支援を受け入れ、自立に向けたサポートをすることができました。
- ・12/5日 韓国の慶尚南道地域自活センターのメンバー5人がショップ見学に来訪し、オーガニックコットンの糸織りの実演をしました。

②領家店：目標額 530万円 実績：4,424,032円（前年 4,888,052円） 目標比 83.5%

前年比 90.5% 税抜き 4,060,025円

- ・イベントを企画するチームを組織し、各月にイベントを計画、実施しました。
- ・目標額に達する月が少なく、厳しい事業結果となりました。チラシ撒きの拡大が課題となりました。
- ・地域の人たちが集いあう場としての拠点として、初めての小物作り教室を開きました。5人の参加があり、好評だったため継続していきたいと思います。
- ・萩丸店の衣類を循環させて、目新しいものを出すことができ売りに繋がりました。
- ・チラシまきを充実させるために、周辺の地図を作成し、エリアを分けてまきました。

③萩丸店：目標 530 万円 実績 4,580,562 円（前年 5,033,244 円） 目標比 86.4%
前年比 91.0% 税抜き 4,202,851 円

・引き続きみやすい展示をこころがけました。外から見ると、暗くて開いているのかどうか
がわからないという意見をしばしば聞くので、対処法を考えました。

（台所との境のカーテン、スポットライト、玄関前の花など）

・全品半額セール回数を減らして、週替わりの種類別半額セールを増やしました。

お楽しみのな雰囲気があり、また相乗効果があり売り上げに繋がりました。

・「陽だまり」の利用促進に努めました。新しい団体利用はありませんでしたが、旧来の団体
の利用は活発でした。

・中田店、領家店に「キャリア便」を利用して倉庫にある提供品を回すことができました。

・「餅つき」「チョコレートフォンデュ」を行い、来客の方々と一緒に楽しみました。

・広いスペースを活用して、以下の講習会を行いました。

カードケース作り 7/31 参加者 5 名

しめ縄作り 12/13 参加者 6 名

・就労支援の受け入れをしました。

2) ボランティアミーティングの開催

①中田店：3 回開催しました（8/12、11/25、3/2）

・常に 15 人弱の参加があり、ショップのイベントなどについて共有をしました。

・ポイントカードについて意見交換し、詳細決定後は個別に対応しました。

・新型コロナウイルス対策を共有しました。

・新しいボランティアも積極的に参加して、意見を反映させました。

②領家店：3 回開催しました（8/6、11/28、3/12）

・来客数を増やすため小物作りを計画しました。

・店内整理や値付け等の統一をあらためて説明し、日々の仕事に生かすよう共有しました。

・ボランティア不足について現状を説明し、来年度も協力を要請しました。

③萩丸店：4 回開催しました（8/20、11/25、12/28、3/24）

・毎回、台所のある利便性を活用して、お昼を作りながらボランティア同士の親睦をはかり
ました。

・随時、ショップのイベントやキャンペーンなどについて、共有しました。

【期間】 通年

【場所】 泉区内の WE ショップ中田店、領家店、萩丸店

【対象者】 主に泉区の市民

【事業高】 14,966,025 円 （目標 1740 万円）

前年度 16,068,766 円（前年比 93.1%）

税抜き 13,733,785 円

2. アジア等における市民、とりわけ女性の生活の向上と自立のための活動を支援する事業

- ①支援検討ワーキンググループを組織して申請書の検討やヒアリングを行い、理事会に提案しました。その結果、以下の事業に助成を執行しました。
- ②今年度から新たに地雷廃絶日本キャンペーンのミャンマーでの義足を作っている現地工場の運営費用の助成を決定し、2月～3月にかけて、3ショップで2週間ずつ、パネルと地雷の模型の展示をしました。実物大の模型とパネルは大変インパクトがあり、地雷の危険とその被害について知ることが出来ました。
- ③クリスマスシーズンに取り組んでいる「地球市民かながわ ACT」の事業説明を聞き、ミャンマーの保育建設と運営に寄付しました。

<助成先>

- ・カンボジア：草の根学校の持続可能な農業支援と若者育成 20万円
- ・カンボジア：JVC 灌漑のため池堀 10万円
- ・ミャンマー：地雷廃絶日本キャンペーン 義足づくり工房運営（新規） 10万円

<寄付>

- ・ミャンマー：地球市民かながわ ACT 保育所建設と運営（新規） 5万円

また、以下の団体会員となりました。

- ・地雷廃絶日本キャンペーン（新規）
- ・ジュマネット
- ・NPO 法人共同の家プアン

【期間】 通年

【場所】 泉区内の WE ショップ中田店、領家店、萩丸店

【対象者】 カンボジア、日本などの社会的に立場の弱い市民や子どもたち

【事業高】 450,000円

3. 地域市民の国際的な意識の自覚を促進する事業

1) キャンペーン事業

ショップという拠点を有効活用してキャンペーンを実施しました。

① 貧困なくそうキャンペーン（世界の貧困について学ぶ）

- ・国内の貧困に焦点を当てて、クイズとフードドライブに取り組みました。昨年と比較して物資の提供は少なくなりましたが、食と貧困をテーマにして多くの人の関心を高めることができました。
- ・1ヶ月の募金と16日の募金はDV被害者の自立支援をしていて連携しているNPO法人共同の家プアンに寄付をしました。

【期間】 10月1日～31日

【場所】 泉区内の WE ショップ中田店、領家店、萩丸店

【対象者】 主に泉区の市民

【事業高】 177,749円（内訳：助成金 113,613円、募金 64,136円）

②愛のチョコ募金キャンペーン（放射能などを含めた核と子どもの影響について知る）

今年度もチョコ募金に取り組みました（100個）。定着したのか、予想より早く完売しました。

【期間】12月～2月

【場所】泉区内のWEショップ中田店、領家店、萩丸店

【対象者】主に泉区の市民

【事業高】55,000円（内訳：募金55,000円）

③東日本震災キャンペーン（震災・津波・原発被害を知る）

9年目になる東日本大震災と原発事故被害の実態を知るためにキャンペーンを実施しました。買い物や提供をしていただいた方々にエネルギーのメッセージをつけたエコ手袋を配布しました。また、3月11日には、萩丸で糸織りのワークショップを行い、震災や原発について地域の人たちと語り合う機会になりました。

【期間】3月1日～31日

【場所】泉区内のWEショップ中田店、領家店、萩丸店

【対象者】主に泉区の市民

【事業高】153,913円（内訳：助成金82,000円、募金71,913円）

2) 共有事業

①WE 講座の開催

支援先の情報共有や社会の学びの場として以下の講座を開催しました。

5/25 食支援の輪を広げよう（JA 横浜みなみ総合センター）

5/26 開発教育

9/11 地雷のない社会をめざして：地雷廃絶日本キャンペーン清水代表

10/2 アジアの子どもたちと貧困：地球市民かながわ ACT 伊吾田事務局長

10/8 日韓の市民関係をどう改善するのか（中田コミュニティー・萩丸店）：
カン・ネヨンさん、山崎誠さん

11/8 緊急学習会「IR 法って何？」（県民サポートセンター）

11/27 JVC カンボジア活動報告（中田コミュニティーセンター）：大村現地代表

12/20 カンボジア草の根学校活動報告（萩丸店）：米倉雪子さん

3/6 インド・アッサム州の現状（県サポ）：ジュマネット 下澤嶽代表

③スタディツアーの開催

今年度は国内外のツアーを企画及び参加することはできませんでした。

【期間】4月1日～3月31日

【場所】泉区内のWEショップ中田店、領家店、萩丸店

【対象者】主に泉区の市民

【事業高】73,359円

3) 招聘事業

韓国と日本の政治的な対応が互いの社会に様々な影響を及ぼしていることを考え、カン・ネヨンさんを WE21 ジャパン、WE21 藤沢と共同で招聘をし、県内 5 か所でミニフォーラムを開催し、韓国の市民社会を知る機会となりました。

【期間】 10月7日～10月10日

【場所】 泉区内の WE ショップ中田店、領家店、萩丸店

【対象者】 主に泉区の市民

【事業高】 27,581 円

4) フェアトレード事業

①ジンジャーティーや福島の物産などを販売して、支援に結びました。

②今年度も「地球市民かながわ ACT」を通してタイの少数民族の女性たちが作った手工芸品を期間限定（クリスマス）で販売しました。また、事務局長の伊吾田さんによる活動の報告会を開催し、フェアトレードに対して理解を深めました。

【期間】 通年

【場所】 泉区内の WE ショップ中田店、領家店、萩丸店

【対象者】 主に泉区の市民

【事業高】 303,628 円

（内訳：ジンジャーティー61,672 円、手工芸品 37,819 円、東日本物産 204,137 円）

5) ネットワークを広げて、問題解決を図ります。

①みなみエリアの地域と連携して、9/11 に地雷廃絶日本キャンペーンの清水代表の講演を実施しました。

②ワーカーズ協会と連携して、就労を希望する人たちの準備支援を担いました。

③生活クラブ泉 commons の「わくわくマルシェ」に参加しました（10/24）。

また、出資金集会の場所に萩丸店を提供しました。

④「トムトムの家」と連携して段ボールの回収、TOKYO 油田と連携して家庭廃油の回収を進め、資源の循環型社会を進めました。（油の回収については別紙参照）

⑤フードバンク神奈川のフォーラムに参加し、地域の福祉団体や社協と連携の第一歩となりました。

⑥東中田小学校の「平和学習」に講師として参加し、児童たちに世界とのつながり、貧困と平和について話をしました。（9/20）

⑦連携している韓国の慶尚南道地域自活センターのメンバーのショップ見学の対応をしました。

4. 事業の広報普及を図る事業

1) ショップちらしや広報紙を充実させ、発行しました。

・機関誌を 2 回発行しました（10 月、2 月）。

・事業の低迷の対策として、2 月の機関誌は 1 万枚を印刷し、地域に配布しました。

- ・夏と冬の統一セールチラシを作成し、地域に配布しました。
- ・ショップごとのイベントチラシを作成し、配布しました。

2)様々な情報を発信して、HPを充実させました。

「ワーコレほっとリンク」とHP制作及び管理の契約を結び、常に情報を更新して充実を図りました。

【期間】 通年

【場所】 泉区内のWEショップ中田店、領家店、萩丸店

【対象者】 主に泉区の市民

【事業高】 226,420円

(内訳: HP業務委託費 120,000円、広報費 50,811円、広報宣伝費 55,609円)